フレンチ・ボウの名工
弓の歴史と名工たちの系譜

演奏家にとって「ある意味では楽器よりも大切」といわれる「弓」。中でもフレンチ・ボウは18世紀から現在に至るまで最高級の弓であり続けている。今号では、「トゥルテ」からの流れを汲みヴィヨーム工房を牽引した名弓としてファンも多い**フランソワ・ニコラ・ヴォワラン**とその弓を紹介する。

第4回

文／清水宏

フランソワ・ニコラ・ヴォワラン
François Nicolas Voirin

フランソワ・ニコラ・ヴォワラン（1833～1885）は、パリの名門〈ヴィヨーム工房〉最後の大物製作家として君臨し、「トゥルテ」「ペカット」「シモン」などを中心とするオールド・ボウの時代から、「ラミー」「サルトリー」「ウーシャ」などを中心とするモダン・ボウの時代へと移り変わる時期に極めて重要な役割を果たした、フランスの楽弓製作史上、欠かすことのできない重要な人物です。

その作品は、当時の演奏家たちから「モダン・トゥルテ」と呼ばれ、それまで主流だった「ペカット」の影響によるスクエア・スタイルの弓製作を、「トゥルテ」の初期の作品に倣ったラウンド・スタイルへと変革させていくものでした。

ミルクールで生まれ シモンのもとで修業 ヴィヨーム工房で頭角を現す

1833年10月1日にフランスのミルクールで、オルガン製作家の父ニコラのもとに生まれたヴォワランは、12歳の頃からジーン・シモンの下で弓製作を始めます。

その生まれ持った才能と手先の器用さは、やがて評判となり、ミルクールではとても注目される存在でした。

そして、1855年に22歳でパリに出て、従兄弟だった大楽器商ヴィヨームの工房で働くことになります。

既にジャン・バティスト・ヴィヨームから高い評価を受けていたヴォワランは、良い住まいを与えられるなど、〈ヴィヨーム工房〉で雇われていた他の職人たちよりも優遇されていて、はじめから独立した形での弓製作を許されたのです。そのため、それまでドミニク・ペカットの圧倒的な強い影響の下で弓を製作する他の〈ヴィヨーム工房〉の職人たちと違い、ヴォワランは自身の判断でトゥルテやピエール・シモンの作品に強い影響を受けた弓を製作しました。

もちろんヴィヨームからの影響も常に受けていて、ヴィヨームが発明したさまざまなスタイルの弓も製作し、「ヴィヨーム・フロッグ」の貝目の中に、ヴィヨームの肖像写真が埋め込まれている作品を〝ピクチャーズ・フロッグ〟といいますが、この時期以降の〝ピクチャーズ・フロッグ〟の弓には、ヴィヨームの肖像写真ではなく、ヴォワランの肖像写真が埋め込まれた作品が多く存在します。

このことからもヴィヨームが、ヴォワランに対して極めて厚い信頼を寄せていたことがわかります。

また、1867年にパリで行われた展示会の際には、数多くの作品を出品する機会をヴォワランに施し、多くのビジネスチャンスを与えました。

ヴィヨーム工房から独立し〈ヴィオッティ・モデル〉を追求 独自のスタイルを築く

しかし、ヴィヨームとは違った考えを持っていた頑固なヴォワランは、成功とともにその言動が強くなっていき、ふたりの関係は悪化していったのです。

その後ヴォワランは、1869年9月3日に結婚したのを機にヴィヨームと働くことをやめ、1870年1月1日から自身の店を構えます。

この頃からヴォワランは、かねてから強い尊敬を抱いていたフランソワ・グザヴィエ・トゥルテ（→本誌2020年6月号・連載第1回参照）の作品をさらに研究し、その初期の作品に多い〈ヴィオッティ・モデル〉の作品を参考にした自身のスタイルを確立していきます。

このことは、後にフランスの弓製作の歴史を大きく変えていくことになります。

♪

それまでフランスの弓製作では、ペカットに影響を受けたスクエア・スタイルの弓製作が主だったのですが、この時期以降ヴォワランが製作したラウンド・スタイルの作品が、当時の著名な演奏家たちに「モダン・トゥルテ」と言わしめるほどの素晴らしい高評価を受け、瞬く間に大流行したのです。

このことにより、後の一流製弓作家の「ラミー」「トーマッサン」「サルトリー」「フェティーク」「バザン」などを中心とする多くの弓製作家たちが、こぞってこのラウンド・スタイルでの弓製作を行ったのです。

その後、エミール・アウグスト・ウーシャの製作した、「ペカットコピー」の作品などの影響により、スクエア・スタイルの作品が再び増えていきますが、少なくとも19世紀後半から20世紀の前半は、ほとんどの弓製作家がこのラウンド・スタイルで弓を製作するほどヴォワランの影響力は大きかったと言えます。

女性的な繊細さとエレガント しなやかで柔らかな倍音を生む

その作品の特徴は、「トゥルテ」の初期の弓と非常に似ているのですが、「トゥルテ」の作品には、エレガントな美しさの中に、迷いのない勢いと力強い細工の削りが感じとれます。

一方、ヴォワランの作品は、型やフォルム、細工と作り、その削りや仕上げ、音に至るまで、それら全てが女性的な繊細さと、エレガントでしなやかな美しさを持ち、特別な柔らかい倍音の響きを持っていました。そのため作品の多くは弓の重量が軽く、時に「弱い」などと揶揄されることもあるのですが、室内楽ではこれら軽量スタイルの作品は素晴らしい役目を果たしてくれます。そのことはヴォワラン自身もわかっていたようで、演奏家からの要望により区分し、時に密度の高い強固な木材を使用して、少し太めで重量のある作品も製作しています。これらの弓は、エレガントで美しいラウンド・スタイルを変えることなく、柔らかで綺麗な音色と力強い音量を両立させていて、ソロ演奏にも活躍できるほどの見事な作品でした。

そのためこれらの作品は、先の軽量スタイルの作品の倍以上の価格で取引されることもあるため、同じヴォワラン作の弓であっても、演奏家の求める

ヴォワラン c1880 Paris　金べっ甲
ラウンド・スタイルで優雅で繊細な美しさを持つ「ヴォワラン」の典型的なヘッドを持つ逸品
ラッピングもオリジナルのミントコンディション

SOLEA
Corelli
New Strings
Information
More
More
Information
www.savarez.com

ものによりしっかりと撰定する必要があります。

♪

その後も人気があり、非常に多くの製作依頼を受けていたヴォワランは、1872年からルイ・トーマッサンを弟子として雇い入れます。

また、1876年からはジョゼフ・アルフレッド・ラミーをアシスタントに迎え、彼らは共に協力して弓製作を行います。しかしそれらは、共同製作の作品とそれぞれ個別に製作した作品とをしっかり区分けしていたのです。これにより、争うことなく非常に良い関係を続けた彼らは、その後ヴォワランが他界するまですばらしい作品を数多く製作して、同世代の弓製作家たちに多大な影響を与え、それまでの伝統を塗り替えるほどのすばらしい発展をもたらしたのです。

なお、ヴォワランは1885年6月4日、国際展示会に出品予定の弓を持ったまま、何かに打たれたように突然路上に倒れこみ、脳卒中により他界しました。

彼の死後、この国際展示会で作品は金賞を受賞し、妻が代理で賞を受け取ったのです。

ヴォワランが製作した全ての作品は、現在も多くの演奏家、収集家、楽器商、製作家たちに求められています。

ヴォワラン expo 1878 Paris　金黒檀
国際展示会で銀賞を受賞した逸品。輝きのある木材のスティック、ノーマル・フロッグの金黒檀

1880年頃製作の金べっ甲
1878年に出品された金黒檀
個性溢れる究極の作品たち

今回ご紹介するフランソワ・ニコラ・ヴォワランの作品は、1880年頃に製作された彼の弓を代表する素晴らしい金べっ甲の作品で、ヘッドは優雅で繊細な美しさを持つ「ヴォワラン」の典型的なスタイルで製作されています。正に「トゥルテ」の初期の作品に多い〈ヴィオッティ・モデル〉をコピーしたラウンド・スタイルの作品ですが、スティックの太さや反りの形状はヴォワラン独自のスタイルで製作されています。

また、フロッグはヴィヨーム・フロッグではなくノーマル・フロッグで、正確かつ緻密に製作されています。状態も100年以上の期間、ほぼ使用されずに大切に保管されてきたミントコンディションで、非の打ちどころがない大変見事な作品です。

♪

もうひとつご紹介する作品は、1878年に製作された作品で、同年に開催された国際展示会で銀メダルを受賞した作品となります。こちらもヴォワラン作の弓であることが一目でわかるほど典型的なスタイルで製作されていて、美しく輝きのある極上の木材で製作されたスティックに、フロッグはノーマル・フロッグの金黒檀があしらわれた大変すばらしい作品です。

Hiroshi Shimizu
ラルジュ ファイン ヴァイオリン代表
（資料・弓写真提供）

2003年に株式会社ラルジュを立ち上げ、以降、ロンドンとニューヨークをはじめとする世界各国のディーラー、オークション会社と太いパイプを持つ。また、修理・調整についても国内外の演奏家たちに支持されている。